

(株)南信サービス 2016年度環境活動報告

2017年7月発行《編集・発行元》(株)南信サービスISO事務局

環境目標の取組み結果

1. 買取廃油価格適正化（担当部署：営業部）

【目的】 汚泥リサイクル施設使用燃料とする買取廃油価格適正化

【目標】 買取廃油の再生油利用コスト再検証及び買取価格自体の検討

A重油の価格低下により再生油自体の単価が下がってきていたため、当社で使用している再生油のコストがそれに対して適正なものかどうか検証しました。

結果的には取組み始めてからはA重油の価格が上昇していったためコスト自体は適正な範囲に収まっていましたが、他社の買取価格や安定供給していただける会社様への価格等の要素、また回収量による再生工程自体にかかるコストの変動についても把握することが出来ました。

汚泥リサイクル施設の稼働が増えてきており、再生油使用量も増加してきているので今後の活動に生かしていきたいです。

2. 故障対策（担当部署：業務部車輛課）

【目的】 収集運搬車輛の故障及び消耗品による環境負荷低減

【目標】 収集運搬車両の故障要因を明確化及び対策

車輛の故障により修理に出すことが増えてきたため、その主な要因を特定することにより未然に故障を防いだり、または修理が軽くなるよう対策をとりました。

2016年度は故障回数の多いものを3つ特定し、それぞれについての対策を検討して実施しました。対策自体は適正なものだと思いますが、結果がなかなか目に見えてくるものではないので、経過観察を行っていきます。

2016年度の取組みでは大型車の管理運転に精通している方を講師に講習会の開催を検討したのですが、相手方と当社双方の予定が合わなかったために実現しませんでした。こちらは2017年度に行いたいと思います。

3. 施設のリサイクル促進（担当部署：業務部施設課）

【目的】 処理施設全体のリサイクル促進

【目標】 汚泥リサイクル施設排出の炭化物及び排熱リサイクルを図るための設備構築炭化物の利用方法として融雪剤に利用出来ないか2015年度から引き続きで取り組みました。ただし、当社近辺にまともに雪が積もらなかったため、氷を作って代用しました。結果として効果はあったのですが、溶けた水分が黒く変色して残るために使用可能は場所が限定されるのではと感じました。また遮熱剤としての検証も行いましたが、逆に熱を持ってしまうという結果でした。

排熱のリサイクルについては、2015年度に引き続き活動しましたが、価格の面（金額自体とし採算性の面）で話が進みませんでした。規模やり方を見直して来年度引き続き取組みます。

4. 電力削減（担当部署：業務部施設課）

【目的】 2019年度末までに処理施設及び管理棟含め2014年度使用機器電力量に対し5%削減

【目標】 取組みの明確化及び2014年度使用機器電力量に対し2%削減

2015年度に引き続いて、処理施設の電力量を削減すべく活動を行いました。比較するに当たり2016年度も m^3 もしくは t 当たりの電力量を基準としています。

2016年度は有機性脱水汚泥保管施設が稼働し始めたために、データ取りが適正に行われるまでに一度不適合が発行されましたが、結果的には全体で5.3%達成ということで目的としていた5%削減に3年前倒しで到達することが出来ました。

手順化や表示等行ったものは維持していき、また維持していくために手順化等していけるものがあればこれから行っていきたいと思います。

5. 再生油精製設備移設（担当部署：業務部施設課）

【目的】 2017年度までに、再生油精製の新設備設置及び運転を開始し、品質の安定向上を目指す。

【目標】 2016年度は設置許可を取得する。

行政書士より28年7月に「事前確認手続依頼書」が提出されたことで申請手続きが動き出したので、数年間凍結していた目標でしたが、再度取組みました。

計画段階では今年の3月に設置許可取得出来る予定でしたが、事業計画書提出後に県知事意見書が届き、その対応を含めて予定通りの進捗で進まなかったために取得出来ませんでした。

ただし、現在は許可取得及び設置を行い、今年度手順化まで行う予定です。

6. 環境保全意識の向上（担当部署：全部署共通）

【目的】 環境保全活動に積極的に取り組むことで意識の向上を目指す

【目標】 社内での環境保全活動実施及び社外で行っている環境保全活動に参加

エコキャップ運動を行っており毎年推進協会の方へ納めています。2010年度からやってきて2016年度初めて納キャップ量が減少してしまいました。もちろん無理に量を増やすものではありませんが、このまま減少しつづけないように来年度は取り組んでいきたいです。

松川自治会の防火水槽の清掃及びゴミ拾い活動は年2回実施することが出来たので、2017年度も引き続き行えるように計画していきます。



リスク及び機会

■ リスク

- ・ A重油等の価格が上がることによる処理原価の上昇
- ・ 天候不良などにより収集運搬業務の停滞及び材料が届かない等
- ・ コンプライアンスが守れないことで環境悪化及び信頼性の低下

■ 機会

- ・ 法等規制強化（コンプライアンス遵守）に対応することで環境保全及び信頼性の増加
- ・ 適正な教育を受けた人員を確保することで処理が滞りなく行える
- ・ 設備投資が出来れば設備の改善及び処理が滞りなく行える

<潜在的な緊急事態>

- ・ コンプライアンスが守れないことによる環境悪化

環境側面報告

■ プラスの著しい環境側面

- | | |
|-------------------|-----------|
| ・ 会社全体 | 自社での処理 |
| ・ 収集運搬 | 汚泥の収集 |
| | 廃油の収集 |
| ・ 汚泥リサイクル施設（焼却） | 空気の冷却利用 |
| | ばいじんリサイクル |
| | 再生油使用 |
| ・ 汚泥リサイクル施設（乾燥炭化） | 炭化物再生利用 |
| | 再生油使用 |
| ・ 有機性汚泥処理施設 | 処理水 |
| ・ 油水分離施設 | 処理水 |
| | 無機汚泥リサイクル |
| | 再生油精製 |
| ・ 廃油再生設備（計画） | 再生油精製 |
| ・ 事務処理 | マニフェスト処理 |

■ マイナスの著しい環境側面

- | | |
|-------------------|---------|
| ・ 会社全体 | 電気使用 |
| ・ 収集運搬 | 事故故障 |
| ・ 汚泥リサイクル施設（焼却） | ばいじん埋立 |
| ・ 汚泥リサイクル施設（乾燥炭化） | 脱臭炉故障破損 |

※赤字は2017年度環境目標として現在取り組んでいます。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■大気汚染防止法	遵守しています
■水質汚濁防止法	遵守しています
■廃棄物処理法	許可更新：滋賀県
■消防法	遵守しています
■ダイオキシン類対策特措法	遵守しています
■P R T R法	遵守しています
■毒劇物法	遵守しています
■省エネ法	該当せず
■温対法	非エネルギー起源…該当（報告書提出）
■小型家電リサイクル法	実績なし
■家電リサイクル法	変更なし
■自動車リサイクル法	車輦の入替等あり
■オフロード法	ホイールローダー購入（28年6月）
■グリーン購入法	遵守しています
■フロン排出抑制法	対象機器廃棄あり
■肥料取締法	遵守しています
■放射性物質汚染対策特措法	遵守しています
■環境教育推進法	遵守しています
■河川法	許可期限更新あり（次回39年3月）
■労働安全衛生法	遵守しています
■環境配慮契約法	適合しています
■地元協定	遵守しています

2016年度遵守状況の評価の結果、遵守されてきました。
違反、訴訟等もありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し

電力の取組みは施設だけでなく会社全体で行ったほうが良い。車輦課の取組みが物足りない。燃料や油、タイヤもゴム製品として取り組めるなら取り組んでもらいたい。炭化物利用方法の検討は着眼点がとても良いので、中途半端な取組みにならないように最後しっかりまとめてもらいたい。豊丘支店でもISO14001を認証取得したいと思うが、今年1年準備期間として勉強してもらい、来年のマネジメントレビュー時にスタート出来るか判断する。

環境方針

当社は、廃棄物の収集運搬及び中間処理事業活動を通して、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことで、環境汚染予防及び関連するその他の環境保護に取り組みます。

関係する環境関連法規、条例、地元協議及び同意するその他の要求事項を遵守します。

また、以下の事項を考慮に入れつつ、技術的・経済的に可能な範囲で環境目標を設け、その達成に向けた活動を定期的に見直しながら推進します。

1. 廃棄物処理施設の運転管理向上
2. 資源・エネルギーのリサイクル向上
3. 廃棄物量削減
4. 環境保全意識の向上

以上を指針とし、地域社会に貢献するとともに、自然環境を尊重し、明るい未来のためにまい進します。

2016年2月6日 代表取締役 竹村 博文

組織図

